

施策評価シート

施策等名称	ライフスタイルに対応できる住まいづくり	体系番号	0501010703
		主管課	都市計画課

1 施策基本情報

現状と課題		・空家は年々増加傾向にあり、適正管理・利活用、発生抑制が必要となっています。 ・約1万個を数える別荘の地域資源としての利活用が課題となっています。							
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)		人も住宅も安全で安心 豊かな住まいづくりをめざして ・生活環境や都市基盤を整備し、まち並みや景観が美しいまち、市民が愛着と誇りを持った住みよい住まいづくりをめざします。							
施策指標	指標名称		指標の説明(単位)		計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値			
	①	空き家住宅改修件数	1年間の改修件数		4.00	10.00 10.00			
	②	空き家・中古住宅流通件数	1年間の流通件数		6.00	10.00 10.00			
	③								
施策の体系	施策の柱 1	名称	住宅ストックの活用			主管課	都市計画課		
		詳細	空き家の適正な管理、楽園信州ちの空き家バンク等による利活用、既存住宅の価値向上を反映した評価方法の普及・定着を推進します。						
		まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業		区分
		1	空き家住宅改修件数	1年間の改修件数	4.00	10.00	1	空き家住宅改修事業	実施
						10.00	2	空き家対策事業	実施
		2	空き家・中古住宅流通件数	1年間の流通件数	6.00	10.00	3		
						10.00	4		
		3					5		
							6		
		基本政策間連携							
	施策の柱 2	名称	別荘地の充実			主管課	都市計画課		
		詳細	別荘開発業者と連携し、既存別荘所有者に対する情報提供や二地域居住の実現に向けた環境整備による活用促進を図り、新たな別荘需要の拡大を目指します。						
		まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業		区分
		1					1	情報発信事業	検討中
							2	民間事業者との連携強化事業	検討中
		2					3		
							4		
		3					5		
							6		
		基本政策間連携							
施策の柱 3	名称				主管課				
	詳細								
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業		区分	
	1					1			
						2			
	2					3			
						4			
	3					5			
						6			
	基本政策間連携								

施策等名称	ライフスタイルに対応できる住まいづくり	体系番号	0501010703
		主管課	都市計画課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分		成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
指標No.			中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
施策		空き家住宅改修件数	4.00	7.00	12.00	4.00	9.00	6.00	5.00
1			10.00	70.00	120.00	40.00	90.00	60.00	50.00
変動要因等	2018年度	3件の違いなので、特に要因はないと思われる。							
	2019年度	リフォーム改修補助金に空き家加算項目を設けた。							
	2020年度	同上。							
	2021年度	同上。							
	2022年度	同上。							
	2023年度	同上。							
施策		空き家・中古住宅流通件数	6.00	7.00	12.00	4.00	9.00	6.00	5.00
2			10.00	70.00	120.00	40.00	90.00	60.00	50.00
変動要因等	2018年度	同上(流通件数は空家住宅改修補助金申請数をカウント)。							
	2019年度	同上。							
	2020年度	同上。							
	2021年度	同上。							
	2022年度	同上。							
	2023年度	同上。							
柱1		空き家住宅改修件数	4.00	7.00	12.00	4.00	9.00	6.00	5.00
1			10.00	70.00	120.00	40.00	90.00	60.00	50.00
変動要因等	2018年度	3件の違いなので、特に要因はないと思われる。							
	2019年度	リフォーム改修補助金に空き家加算項目を設けた。							
	2020年度	同上。							
	2021年度	同上。							
	2022年度	同上。							
	2023年度	同上。							
柱1		空き家・中古住宅流通件数	6.00	7.00	12.00	4.00	9.00	6.00	5.00
2			10.00	70.00	120.00	40.00	90.00	60.00	50.00
変動要因等	2018年度	同上(流通件数は空家住宅改修補助金申請数をカウント)。							
	2019年度	同上。							
	2020年度	同上。							
	2021年度	同上。							
	2022年度	同上。							
	2023年度	同上。							

施策等名称	ライフスタイルに対応できる住まいづくり	体系番号	0501010703
		主管課	都市計画課

3 評価・改革改善

(単位:円)

評価	項目		2018年（前年度比）		2019年（前年度比）		2020年（前年度比）		2021年（前年度比）		2022年（前年度比）		2018年～2023年（総括）	
	投資額	事業費(円)	139,906		367,945	2.63	119,498	0.32	3,159,748	26.44	14,507,088	4.59	3,518,616	0.24
		うち一財(円)	139,906		367,945	2.63	119,498	0.32	3,159,748	26.44	14,507,088	4.59	3,518,616	0.24
		増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以 上の場合 に記載)							空き家システム管理構 築費及び相続財産管理 人選任による申立て費 用がかかったため、大幅 増。		空き家調査委託料及び 特定空家の空き家除却 負担金の支出により、大 幅増。		前年度、特殊要因が あったことによる減。	
総合評価	進捗評価		遅れている		やや遅れている		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調	
	主な取組内容や成果		・空家等対策計画策定後初の協議会開催 →今後の取組の方向性を確認した。 ・特定空家認定候補抽出 →代執行を視野に入れた取組みに着手できた。 ・別荘については未着手。		・空家等対策計画策定後初の協議会開催 →今後の取組の方向性を確認した。 ・特定空家認定候補抽出 →代執行を視野に入れた取組みに着手できた。 ・別荘については未着手。		・空家等対策計画策定後初の協議会開催 →今後の取組の方向性を確認した。 ・特定空家認定候補抽出 →代執行を視野に入れた取組みに着手できた。 →相続人不存在案件について、財産管理人選任の道筋をつくった。 ・別荘については未着手。		・空家等対策計画策定後初の協議会開催 →今後の取組の方向性を確認した。 ・特定空家認定候補抽出 →代執行を視野に入れた取組みに着手できた。 →相続人不存在案件について、財産管理人選任の道筋をつくった。 ・別荘については未着手。		(R4評価) ・相続人不存在案件について、相続財産管理人による空き家除却の道筋を作った。 ・空き家調査の実施により、別荘地以外の空き家の把握に取組めた。 (総括評価) 空き家調査等の対策を推進できている、今後の空き家流通促進の素地ができた。		(R5評価) ・空き家調査結果をもとに空き家所有者への意向調査を実施することで、相談会への誘導や利活用の意向を確認できた。 (総括評価) ・特定空家への認定とそれらの除却に向けて取り組むことができた。 ・空き家相談会を軌道にのせ、毎月継続することができた。	
		課題	・空家対策協議会を実施性のある協議体にする。 ・特定空家認定～代執行までの手続きの実施。 ・空き家相談体制の整備。 ・市内空き家の状況・予測見える化。 ・別荘の実態把握。		・空家対策協議会を実施性のある協議体にする。 ・特定空家認定～代執行までの手続きの実施。 ・空き家相談体制の整備。 ・市内空き家の状況・予測見える化。 ・別荘の実態把握。		・空家対策協議会を実施性のある協議体にする。 ・特定空家認定～代執行までの手続きの実施。 ・空き家相談体制の整備。 ・市内空き家の状況・予測見える化(システムの導入R3予算化済み)。 ・別荘の実態把握。		・空家対策協議会を実施性のある協議体にする。 ・特定空家認定～代執行までの手続きの実施。 ・空き家相談体制の整備。 ・市内空き家の状況・予測見える化(R4からシステム導入済み)。 ・別荘の実態把握。		(R4・総括評価共通) ・空き家の存在把握～特定空家認定～代執行までの手続きの具体化。 ・空き家マッチングの取組。		(R5・総括評価共通) ・特定空家や管理不全空家等への対応の仕組み作り。 ・空き家マッチングの仕組みの構築。	
改革・改善	改革・改善内容		・空き家の現状・予想と対応状況のDB整備(マッピング)。 ・Dランク空き家の特定空家認定。 ・空家対策協議会に部会制を導入。 ・民間専門団体と協働した空き家相談体制の構築。 ・空き家発生抑制啓発対策の実施。 ・別荘実態調査の実施。		・空き家の現状・予想と対応状況のDB整備(マッピング)。 ・Dランク空き家の特定空家認定。 ・空家対策協議会に部会制を導入。 ・民間専門団体と協働した空き家相談体制の構築。 ・空き家発生抑制啓発対策の実施。 ・別荘実態調査の実施。		・市内空き家の状況を見える化するため、空家システムの導入を検討。令和3年度導入に向けて予算化済み。		・市内空き家の状況を見える化するため、空家システムを導入。令和4年度市内の空き家状況調査費を予算計上済み。市内空家の状況を正確に把握し、対策を講じていく。		・特措法改正を含め、特定空家対応のマニュアル化 ・空き家マッチングの実施に向け、地域おこし協力隊の採用及び空き家バンクの検討。		・特定空家及び管理不全空家対応のマニュアルの精査及び実施。 ・空き家バンク及び空き家マッチングの実施に向けた仕組みの構築・確定。 ・空き家対策促進事業補助金を活用した空き家対策。	
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1		1		1		1	
		重点事業	2		2		2		2		2		2	
理由			まずは周囲にマイナスの影響を及ぼしている空き家の除却、入口となる空き家の発生抑制が重要。		まずは周囲にマイナスの影響を及ぼしている空き家の除却、入口となる空き家の発生抑制が重要。		まずは周囲にマイナスの影響を及ぼしている空き家の除却、入口となる空き家の発生抑制が重要。		まずは周囲にマイナスの影響を及ぼしている空き家の除却、入口となる空き家の発生抑制が重要。		空き家の改修支援等による流通促進が空き家の老朽化を防止するため。		空き家マッチング及び空き家補助金による流通促進が空き家の老朽化を防止するため。	

作成担当者	矢嶋 浩行	土岐 篤広	土岐 篤広	土岐 篤広	五味 健太郎	五味 健太郎
最終評価責任者	篠原 尚一	篠原 尚一	篠原 尚一	岩崎 研二	岩崎 研二	黒澤 俊彦
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月7日	2021年5月21日	2022年5月20日	2023年10月19日	2024年7月12日